

遊び場づくりは まちづくり、未来づくり

一緒につくっていきませんか？

市民(団体)の方

企業・民間団体の方

国・自治体の方

◎会員になる / 寄付をする

年会費	個人	団体
正会員	8,000 円	15,000 円
賛助会員	10,000 円	20,000 円

◎ボランティア(プロボノ)として参加する

特に、次のようなスキルや専門知識で力を貸してください。

情報発信・広報

調査研究

ファンドレイジング
(資金調達)

事業戦略づくり

*プロボノ：専門知識・技術を活かして行う奉仕活動、ボランティアのこと。

◎事業連携(一例)

講座等の共催

1日遊び場の開催

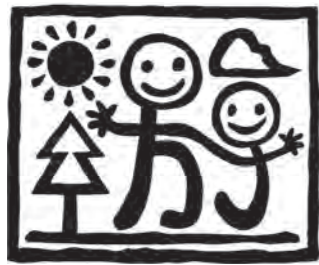
社員・職員向け研修

寄付講座等の開催

職員向け研修

業務委託

CSR・SDGs等のカウンターパート



特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会

〒171-0014

東京都豊島区池袋 2-57-6

MC オフィス池袋西口ビル 311 号室

<https://bouken-asobiba.org>

電話 03-5430-1060

メール info@bouken-asobiba.org



協会 WEB サイト

私たちはユニセフの諮問組織である IPA (子どもの遊ぶ権利のための国際協会) 日本支部から派生した団体であり、これらの組織と共通の理念のもとに活動しています。

発行年月：2023年6月 デザイン：白鳥佐和



遊び
あふれる
まちへ!

特定非営利活動法人
日本冒険遊び場づくり協会



遊びについて

子どもは遊ぶことで自ら育ちます。

子どもは自由に遊ぶことを通して、自分が何者であるかを知り、その後の人生を手づくりする力を得ていきます。

また、ユニセフが 2020 年に発表したレポートにおいて、外遊びの機会が子どもの幸福度に直結することが指摘されています。そのレポートでは世界の先進国の子どもの幸福度も報告されており、日本の子どもの幸福度の総合順位は 38 か国中で 20 位、中でも精神的幸福度に関しては 37 位でした。

※出典：ユニセフ・イノチェンティ研究所『レポートカード 16 子どもたちに影響する世界：先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か』2020 年 9 月

今の日本は、子どもの遊びにおいて重要な「おもいきり遊べる空間、何も課されず自分で過ごし方を決められる時間、一緒に楽しめる仲間」がどんどん減少しており、子どもが街中で遊ぶことすら許容できない不寛容な社会となってしまっています。私たちはすべての子どもが幸せな状態 (Well-being) で成長することができるようにするためにも、日本の社会にもっと子どもが遊べる環境が広まることが不可欠だと考えています。

全国に広がる冒険遊び場づくり

くわしくは→「遊びに行こう！」
<https://bouken-asobiba.org/play>



冒険遊び場づくりについて

冒険遊び場は、子どもが「遊び」をつくる遊び場です。

大人が用意した遊びのプログラムや既成の遊具ではなく、子ども自身の「やってみよう！」気持ちを大切に、子どもの手でつくりかえることができる遊び場として 1943 年にデンマークで生まれました。日本ではプレーパークとも呼ばれ、1970 年代に始まり全国で 450 団体以上に広がっています。

冒険遊び場は、オープンアクセスな屋外空間を使用していることから、乳幼児期から青年期、そして親世代や地域の大人にとっての居場所やセーフティネットとしても機能します。また、地域住民や行政などとの協働を重視しているため地域のつながりづくりや市民参画意識の向上にも寄与します。

事業内容

日本冒険遊び場づくり協会は、冒険遊び場づくりの理念と実践を広めるとともに全国の活動者のネットワークづくりに取り組む中間支援組織です。「遊びあふれるまちへ！」を合言葉に、地域で子どもたちが自由に遊び育つ豊かな社会の実現を目指しています。

人材育成

研修プログラムの企画・実施、人材交流事業

事例 「冒険遊び場の危険管理 理念編・実践編」実施、青少年国際交流推進事業（日独青少年指導者セミナー）

相談・支援

冒険遊び場づくり総合窓口運営、講師派遣、行政協働や企業連携による遊び場づくり

事例 相談・取材等対応、オンライン会員交流会実施、冒険遊び場の立ち上げ支援

調査・研究

冒険遊び場づくり情報研究センターの運営

事例 冒険遊び場づくり活動実態調査、プレーカー事業活動実態調査

普及・啓発

資料の制作と頒布、機関誌の発行、学習会の企画・実施

事例 「冒険遊び場ブックレット」制作・頒布、シリーズ学習会「〇〇×遊び」開催

計画・設計

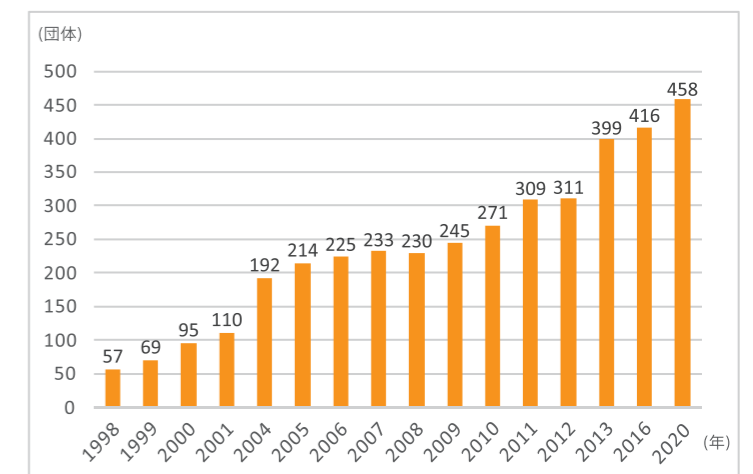
政策提言、声明の発信

事例 提言書『「外遊び」の力を次の世代に』発表、国や自治体の委員会での活動

冒険遊び場のあゆみ、協会のあゆみ

- 1943年** デンマークに世界で最初の冒険遊び場「エンドラップ廃材遊び場」がつくられる。
- 1970年代** 当会初代代表の大村虔一氏（都市計画家）が日本に冒険遊び場を紹介。世田谷区内で期間限定での冒険遊び場が開催される。
- 1979年** 日本初の常設型の冒険遊び場となる羽根木プレーパーク開園／IPA（子どもの遊ぶ権利のための国際協会）日本支部の発足
- 1998年** 第1回冒険遊び場全国研究集会開催
- 1999年** 当会の前身であるIPA日本支部冒険遊び場情報室設立
- 2003年** 特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会設立

日本の冒険遊び場づくり活動団体数の推移



2020年のデータは第8回冒険遊び場づくり活動団体活動実態調査による。詳しくは→「遊び場を知ろう！」
<https://bouken-asobiba.org/know/index.html>